

腰痛

多くは支持組織の障害

石井整形外科医院

院長 石井 勇人 先生

整形外科の外来を受診する患者さんの約3割が腰痛を訴えます。腰痛の原因は背骨・靭帯・椎間板・筋肉などの支持組織の障害によって発生することが多くの割合を占めますが、発生が急性か慢性か、はっきりした原因があるかどうかの問診や、下肢の神経症状があるかないかなどの理学所見とレントゲンでおおよその診断が可能です。しかし、中には血液検査やMRIが必要なこともあります。

次に外来で比較的多い疾患を紹介します。

- いわゆる腰痛症＝明らかな原因疾患がなく、レントゲンでも異常がないということから、筋の疲労や不良姿勢などが原因と考えられる腰痛です。
- 変形性脊椎症＝老化などの退行変性により椎間板の変性や狭小化を来し、骨棘などの変形がレントゲンで認められ腰痛、下肢痛などを伴います
- 椎間板ヘルニア＝椎間板が突出して神経を圧迫し、下肢の痛み、筋力低下、しびれを伴った腰痛が特徴です。
- 腰部脊柱管狭窄症＝腰椎のすべり症や、靭帯の肥厚により脊柱管が狭くなり、下肢の神経が圧迫され、歩行が休みやすみになる特徴があります。
- 腰椎圧迫骨折＝骨粗鬆症が基礎にある老人に多く、尻もちなどの軽微な外傷でも発生することがあり、受傷後は疼痛が強度で体動が困難な状態が多く見受けられます。

治療は個々の症状により、いろいろですが、外来では消炎鎮痛剤の内服、コルセットの装着、温熱療法や低周波、牽引療法などの消炎鎮痛処理などが行われます。中には症状が強度のため入院し絶対安静や手術が必要なこともあります。

最後に、腰痛を訴える中には悪性腫瘍の転移など重大なものもあり、安易に考えず整形外科を受診して、適正な診断、治療を受けることが大切です。